

うだちから かだちから

「うだちから」とは、宇陀に由来からある地域コミュニティの力(宇陀力)のこころです。このコーナーでは、市が取り組む「まちづくり」や NPO 団体などを紹介します。
問 地域振興課 ☎82・3910/IP ☎88・9094

1 地域伝統行事『とんど焼き』

笠間地区まち協

1月16日、室生下笠間地区にて地域伝統行事『とんど焼き』を行いました。この地域では「とんどやぐら」が2つ作られ「小とんど(子ども用)」の点火から1時間後に「大とんど(一般)」が点火されます。「とんど焼き」とは、小正月に行われる火祭り行事で、満月と神聖な火による浄化の力で集落の人々の1年の災いを払い、五穀豊作、商売繁盛、家内安全、無病息災、子孫繁栄などを願います。



▲マシュマロ美味しそう!!

わらや青竹、雑木で「やぐら」を作り、持ち寄った正月飾りや縁起物、書初め、成績表などを燃やした後、先端を尖らせた長い竹竿や竿の端に網を吊り下げるなど、工夫された道具を使い、お餅や子どもたちは菓子パン、マシュマロなどを焼いて食べます。燃やしたものが高く上がれば上達や運氣上昇、焼いたものを食べれば無病息災など言い伝えがあり、また焼いた灰を持ち帰って畑に撒くと良いと伝えられています。

2 世代間交流の開催

菟田野の歴史・観光について

菟田野まち協



▲とんど焼きの様子

当まち協では、世代間交流事業として市内外の学生さん等と交流を行い、菟田野の町の歴史や観光、そして魅力などを紹介しながら、自分たちの故郷のことや将来のことなど何か形にできるようにと活動をしています。

1月13日、次世代の子どもたちに対することへの誇りと愛着を持ってもらうことと菟田野中学校の総合学習(地域学習)の一環として、1年生の皆さんに菟田野の歴史・観光スポットを紹介。当まち協からは、ボランティアガイドをしているメンバーが参加し、50分という限られた時間内での講話でどこまで伝えることができたかは心もとないですが、皆さんメモを取ったり資料を



▲授業風景

見たりと熱心に聞いていただきました。後日、中学校からは、生徒の皆さん方の感想文を届けていただきましたので抜粋してご紹介します。
・菟田野中学に来ていただきありがとうございました。
・いくつか時間ができればスポット全部回ってみたい。
・他にもスポットを発見したい。
・将来は、歴史があつて居心地のいい所だと伝えていきたいです。
等々「まちづくり」の基本は「人づくり」。「お国自慢のできる人」、皆さんが将来多くの方に「菟田野自慢」をしていただくことをお願いし、交流会を終えました。今回の開催にはさらに内容を充実して菟田野をPRしていくと共に交流を深めていきたいと思っています。

3 「Purje」(プルイェ)と「イトグチャ」で活動中

宇陀市仕事づくり推進隊

(ネクスストコモンズラボ奥大和)

「Purje」仕事づくり推進隊の松岡志帆です。大宇陀下宮奥で自家栽培したお野菜や果物を使ったレストラン「Purje」を営んでいます。今後さらにこの地に根付いたレストランにしていこうと思っっています。私たちの事業や生活を見て、宇陀に住みたい!と思ってくれる方がどんどん増えていくと嬉しいです。これからは、音楽やアートを楽しみながらお食事ができる催しなどもつくって



▲地域に根付いたレストランを目指します!



▲1日1組限定のコースメニューを体験できます

いきたいと思っています。

「イトグチャ」

仕事づくり推進隊の川原菜緒です。

室生で「イトグチャ」というお宿を営んでいます。自分と向き合える場所として、訪れた方の記憶に残るような空間づくりを心がけています。お宿ということ、地元の方々に利用していただける機会は少ない



▲宇陀の魅力を発信していきます!



▲宿のテーマは「わたしの心地よいを探す物語」

ですが、外に向けて宇陀の魅力を発信できる存在になれたらと思っっています。現在、宿の隣にサウナ小屋づくりを進めています。お宿に泊まりながらサウナも楽しめるプランも始まります。



「サクハラ」

一口に桜といっても、種類や品種は実に多く、世界中には二百種が分布しています。桜の樹皮をはぎ、外皮を取り去った内皮(甘はだ)を桜皮といい、ヒガンザクラ、ヤマザクラなどでは、いずれも薬用とされ、漢方薬の十味敗毒湯などに使用されます。桜の皮は、はぐのは夏ですが、桜の木は病気に弱いので、切り倒すとき以外は、一部でははがさないように注意しましょう。桜皮は、655年に書かれた新修本草に記載されているように、古くから使われている薬木です。花は春(3月-4月)に採集して

桜漬けにします。桜の柔らかい葉は、塩漬けにして保存し、桜もちにも使われますが、葉をそのまま食べてもよく、揚げ物にしても、おいのよいてんぷらができます。乾燥したものを粉にして、いろんなものに混ぜて利用してもよいでしょう。また、生の青葉を、他の材料と混ぜて青汁を作ると、よいにおいが付くので、おいしくいただけます。桜皮をせんじて服用、または粉末を飲むと収斂剤となり、瘍、疔、じんましん、しっしん、水虫などの皮膚病、腸炎、せき止めに効果があります。



▲春が待ち遠しいですね!
※当市で「薬草活用講演会」をしていた村上光太郎先生の連載より一部抜粋

薬草逍遙(やくそうしやうしやう) 毎回「薬草」に関わる内容を連載でお届けするコラムです。